

地方財政論

担当者 伊多波 良雄

開講時期 前期 単 位 2

●講義の概要

情報化の進展・グローバリゼーション・少子高齢社会の到来などを背景に、地域間格差が拡大している。このような動きは従来の地方財政制度の見直しを迫っており、現在、地方財政制度の新しい姿が模索されている。本講義は、公的部門と民間部門の範囲および公的部門における地方政府の役割などを概観した後、効率性の観点から補助金（地方交付税と国庫支出金）および地方税などの地方財政制度を検討すると同時に、望ましい地方財政制度のあり方について検討する。

●講義の到達目標

- ① 補助金や地方税などの地方財政制度の歴史の変遷を概観しながら、現行制度に関する知識を習得する。
- ② 以上を踏まえて、現在問題になっている地方財政制度改革について考える能力を具備することを目的とする。

●講義計画

- 第1回：地方財政制度の歴史の変遷
- 第2回：中央政府と地方政府の役割
- 第3回：地方分権のあり方
- 第4回：地域公共財の最適供給
- 第5回：公共財と政策評価
- 第6回：補助金制度
- 第7回：補助金の根拠
- 第8回：補助金の経済効果
- 第9回：補助金の評価：効率性
- 第10回：地方税：どのような税が望ましいか？
- 第11回：地方税：どのような税があるか？
- 第12回：地方税：租税競争とは？
- 第13回：地方の借金はどれくらいあるか？
- 第14回：地方公営企業の現状と課題
- 第15回：望ましい地方財政制度の検討

●成績評価基準と方法

- ① 授業への参加の程度（報告、質疑など）40%
- ② レポート提出（与えられたテーマについて、講義で習得した基礎的知識を踏まえながら論理的に展開されているかどうか評価する）60%

●テキスト又は参考文献

—テキスト—

講義中に指示する。

—参考文献—

伊多波良雄『公共政策のための政策評価手法』中央経済社
2009年